

Book Review



月刊「歯科技工」別冊

Dental Photo Master

チェアサイド・ラボサイドにおける撮影スタイル

岩田 淳 執筆/瓜坂達也 執筆協力

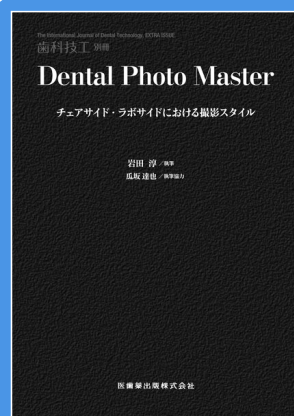


Reviewer

大河雅之 Masayuki Okawa

(東京都・代官山アドレス歯科クリニック)

A4判, 136頁
カラー
定価 6,600円
(本体 6,000円+税 10%)
医歯薬出版刊



各種 SNS をはじめとするインターネットの力により、情報の国境がますます低くなった現在、筆者も海外と交流するなかでその影響を日々感じているがそんななか、情報発信においては写真撮影技術がひとつのキーポイントとなる。インターネットに流れる大量の臨床写真のなかで注目を集めるためには、それぞれの手技が確実・丁寧にエビデンスをもって行われていることはもちろん、それをより鮮明に、できれば新たな視点で提示することが求められる。もちろん、日常臨床の記録や自己研鑽の意味でも歯科における写真撮影は重要なスキルであることは、言うまでもない。

本書の著者である岩田 淳氏は、日本臨床歯科学会 (SJCD) に所属の松川敏久氏 (奈良県開業)、本多正明氏 (大阪府開業) に師事した後、2016 年に兵庫県で開業した気鋭であり、筆者とは日本臨床歯科学会とともに学ぶ同志でもある。勤務医時代からすでに頭角を現していたが、開業後は冒頭で述べた SNS、なかでも Instagram での活躍が目覚ましく、今では世界各国から

11 万人を超えるフォロワーを集めている。

その岩田氏が、歯科技工士の瓜坂達也氏 (大阪府開業) の協力を得て著したのが本書である。筆者が厳選した、本書の内容を物語る写真が並ぶ「Opening Graph」にはじまり、「Chapter 1 デジタルカメラの基礎知識」「Chapter 2 撮影の実際」「Chapter 3 撮影テクニック」の 3 つの Chapter で構成されており、ステップごとに学べる構成となっている。

「Chapter 1」では、ホワイトバランスや露出といった写真の基礎知識に加え、筆者が日常用いている機材 (カメラ本体、レンズ、バウンサーなど) が多数紹介され、しかも実際に組み合わせた使用時の外観やそれぞれの撮影結果が豊富に示されており、理解を助けている。適切な撮影結果はもちろんのこと、セッティングのミスがもたらす結果について丁寧に示している点も貴重である。

続く「Chapter 2」には、「Chapter 1」での知識を基に、口腔内や顔貌の撮影を行うための内容が示されている。口

腔内、口唇、顔貌といった基本的なパターンに加え、シェードガイドを用いたシェードマッチング用写真の撮影法についても詳説されている。瓜坂氏による「ラボサイド目線でのシェードテイキング」の項では、フラッシュの使用法によって起きた実際のトラブルについて歯科技工士の視点から示されており、学ぶところが大きい。時代を反映した、スマートフォンを用いた撮影法のパートにも注目したい。

そして「Chapter 3」ではよりアドバンスな内容として、口腔外での静物写真撮影 (補綴装置やインスツルメントなど) について詳説している。歯科医院内でも本格的なライティングが可能であることを随所で示しており、著者のこだわりが感じられる。

歯科医療のグローバル化が常識となった現在だが、こうした歯科写真撮影を体系的に学ぶ機会はいまだに多くない。本書は、若手歯科医師はもちろん、国内・海外への情報発信を志向する歯科医師にとって、自身の臨床を可視化するための確かな指針となる一冊である。